を、人を想いたくなる情報誌
広報湯前
https://www.town.yunomae.lg.jp/
12
The Monthly
Dec_2019
Vol.462
里宮の舞台、いざ――
里宮神社紅葉ライトアップ
秋夜を照らす。

CONTENTS_目次

今月の表紙

湯前中学校で長年続けられている伝統芸能の継承活動。全校生徒が東方太鼓踊り、浅鹿野棒踊り、球磨神楽に分かれて、里宮神社の秋季例大祭で踊りを奉納。地域の人や文化とかかわり、ふるさとへの愛着を深めていました。

アプリ「マチイロ」を使うと、スマートフォンでも広報湯前が読みやすくなります。QRコードを読み取り、簡単な登録を済ませてください。

※アプリのダウンロードや登録は無料ですが、通信料は利用者の負担となります
※アプリの閲覧中に広告が表示されますが、その内容に本町は一切責任を負いません

協定書を持ち、カメラの前に立つ関係者（左から：長谷町長、関社長、蒲島知事、赤木由美熊本支社長）

Pick up

JR九州商事と19.63ヘクタールを整備

本町３例目の森づくり協定は「JR九州商事の森ゆのまえ」

本町とJR九州商事㈱（本社＝福岡県）が11月1日に熊本県庁で森づくり協定を結びました。期間は令和４年３月末までの２年５カ月間。馬場地区の町有林約19・63ヘクタールで森づくりを進めます。

協定は熊本県の「企業・法人等の共同の森づくりに関する指針」に基づくもの。収穫期を迎えたスギやヒノキなどの森林の更新や再造林で、地域の重要な資源を将来へ引き継ごうと、平成20年度に日本たばこ産業㈱（JT）、同23年度には大阪府の建材商社㈱紅中と同様の協定を結んでいます。３例目の今回は「JR九州商事の森ゆのまえ」と名付け、植林や下刈り、野生動物から木を守る防護柵の設置などの費用の一部を同社が助成します。森林への理解と関心を深めてもらおうと年に一度、社員と家族、地元関係者で保全活動も行います。

調印式では、立会人の蒲島郁夫県知事が「県内の森林整備がさらに進み、企業と地域との交流が深まることで、豊かな森づくり、生き生きとした地域づくりにつながることを期待している」とあいさつし、長谷和人町長、関信介社長とともに、協定書に署名しました。関社長は「地域環境保全に取り組み、微力ながら地域の元気づくりにもお役に立てれば」、長谷町長は「将来、感謝される取り組みとなるような森づくりをしていきたい」と述べました。

11月16日、第一回の活動として、72人が1ヘクタールにスギの苗木を約２千本植えました。

スギの植林に汗を流す参加者

1_参加者と距離を感じさせないようなゲストの温かい雰囲気 2_隠れている漫画家たちの声に合わせてヒーローが動く 3_即興で描く漫画も圧倒的な画力 4_全国から駆け付けたファンと記念撮影 5_打って変わってイラストに集中 6_握手で参加者を見送るゲストたち

Pick up

時を忘れるほどに。

ゆのまえ漫画フェスタ前夜祭

ゆのまえ漫画フェスタの前夜祭が11月9日に農村環境改善センターで開かれ、人気漫画家や俳優らのトークショーでにぎわいました。

ゲストは村枝賢一さん（仮面ライダーSPIRITSなど）、東毅さん（電波教師など）、皆川亮二さん（ARMSなど）の漫画家と仮面ライダーアマゾン主役の岡崎徹さん、原作者のたかしげ宙さん（スプリガンなど）の５人。「湯前を守るヒーロー」などとたかしげさんが考えた設定を元に４人がキャラクターを描き、協力して４コマ漫画を作成するなど、時間を忘れて絵に没頭。ファン約80人は愉快なトークとプロの技を楽しみました。

2019 YUNOMAE MANGA FESTA

みんなが熱くなれた日

2019 ゆのまえ漫画フェスタ フォトリポート

2019ゆのまえ漫画フェスタ（伊藤昌一実行委員長）は11月10日に湯前まんが美術館一帯で開かれ、メーンのアニソンライブや漫画イベント、コスプレなどでにぎわいました。「漫画のまち」として本町を県内外に広くアピールしようと、ことしで28回目の開催。メーンは動画再生数5千万回以上の人気を誇るMARiA＆みうめ＆217のアニソンスーパーライブ。圧倒的な歌唱力とダンスで子どもから大人までが熱狂しました。

会場には「鬼滅の刃」など、人気アニメ・漫画のキャラクターに仮装した人が多数。本格的なものから、かわいらしいものまで、幅広い年齢層がコスプレを楽しみました。

ステージでは漫画家らのトークショー、人気キャラクター「おしりたんてい」ショー、会場内には和牛串や牛ホルモン煮込みを販売する畜産祭りコーナー、各種出店、遊具コーナーなどもあり、にぎわっていました。

1_歌声とダンスで魅了したMARiAさん 2_記念撮影を楽しむコスプレイヤー 3、6、11_本格的なコスプレ姿の参加者も多数 4_みうめさん、217さんらのグループCOJIRASE THE TRIPも圧巻のパフォーマンス

5_僕も運転手 7、14_漫画図書館前の落書きコーナーも人気 8_東方太鼓踊りの勇壮な踊り 9_かわいらしいコスプレ姿でかき氷をほおばる子ども 10_行列のできる和牛串 12_両手をいっぱいに広げ、笑顔でもちを投げるMARiAさん 13_ミニSLで出発進行 15_ライブに熱狂するファン 16_迫力満点のエイサー 17_小さなお友達に大人気のおしりたんてい

昨年度の決算をお知らせします

湯前町の財政状況

昨年度、町にどのくらいのお金が入り、どのように使ったのか、一般会計を中心にお知らせします。

一般会計

歳出
29億9,721万円

- 民生費　9億751万円　30%
- 総務費　5億8,004万円　19%
- 衛生費　1億4,001万円　5%
- 教育費　2億5,864万円　9%
- 農林水産業費　2億3,867万円　8%
- 土木費　3億2,825万円　11%
- 災害復旧費　2,682万円　1%
- 消防費　1億2,808万円　4%
- 議会費　6,734万円　2%
- 商工費　9,152万円　3%
- 公債費　2億3,033万円　8%

歳入
32億570万円

※1億6,054万円は翌年度繰り越し

■一般会計 用語の説明

歳入

町税…町民が町に収める税金。町民税、固定資産税、軽自動車税など
繰越金…前年から繰り越したお金
分担金・負担金…保育料など、町の事業で利益を受ける人から集めるお金
繰入金…特別会計や基金から移したお金
国庫・県支出金…町が行う事業へ、必要に応じて国(県)から交付されるお金
町債…特定の事業を行うために町が借り入れたお金
地方譲与税…国税や県税の一部を町へ譲与・交付するお金
地方交付金…どの市町村も一定のサービスを行えるよう、国から交付されたお金

歳出

民生費…子ども、高齢者、障がい者などへの福祉サービス
総務費…総務管理、税務事務、選挙、統計、監査など
衛生費…健康増進、ごみ処理など
教育費…小中学校の管理運営や施設の整備、社会教育など
農林水産業費…農業、林業、畜産業など
土木費…道路や橋、公共施設の整備や維持管理など
消防費…地域の防災力の向上、広域消防、消防団など
災害復旧費…自然災害で被害を受けた施設などの復旧
議会費…議会運営にかかるお金
商工費…観光や商工業の振興
公債費…借入金の返済費

■一般会計 主な事業 ※抜粋

1. 介護予防拠点の整備…2,045万円
公民分館に空調、手すり、血圧計などを設置

2. 歩道の整備…4,198万円
町道学校線、町道上里古城線など

3. 街なみの整備…2,048万円
レールウイングモニュメント、トイレなど

4. 若者向け町営住宅の建設…2,016万円
中里区に1棟3戸

1 2

3

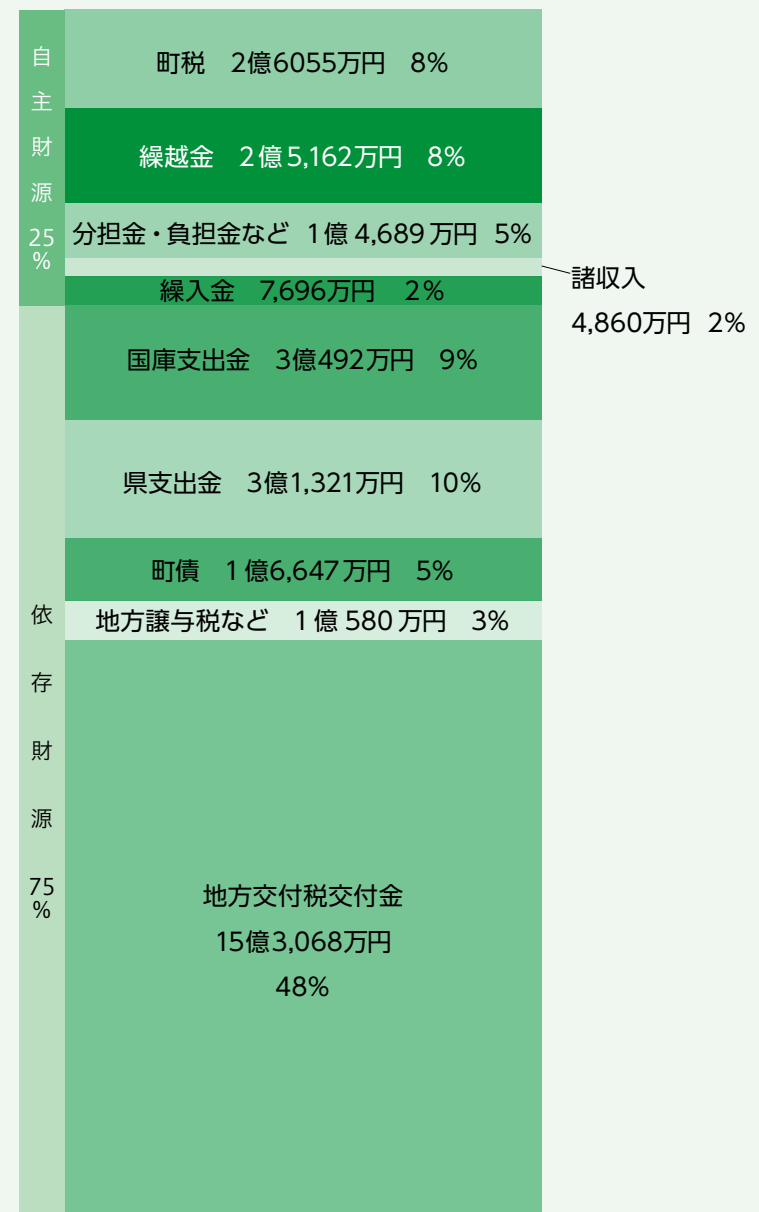
4

■特別会計　町が特定の事業を行うときに経理を明確にするため、一般会計と区別した会計

会計名	歳入	歳出	差引額
国民健康保険	5億3,586万円	5億418万円	3,168万円
下水道事業	1億4,824万円	1億4,672万円	152万円
介護保険	7億2,729万円	7億1,384万円	1,345万円
後期高齢者医療保険	5,766万円	5,690万円	76万円

■企業会計　町が経営する企業の会計（収益的収支…水道水の供給に必要な財源と経費　資本的収支…水道施設を建設・改良するための財源と経費）

会計名	歳入	歳出	差引額
水道事業	収益的収入 7,774万円	収益的支出 3,774万円	4,000万円
	資本的収入 5,000万円	資本的支出 6,520万円	▲1520万円

不足額は、これまで蓄えてきた留保資金や減災積立金などで補てん

市房山神宮 里宮神社

地域おこし協力隊と里宮神社の合同イベントとして、11月8日から14日まで紅葉のライトアップが行われました。最終日には下城子ども会の協力で境内に竹灯ろうが並べられ、紅葉とともに秋夜を幻想的に彩りました。

里宮神社紅葉ライトアップ

秋夜を照らす。

Light up The Night

Fall Colors

伝統を継ぐ。

湯前中学校伝統芸能継承活動

1～3、13、14 迫力のある勇壮な踊りを披露した東方太鼓踊り。「おりゃー！」と掛け声も気合十分 4～7、15_ 息を合わせて棒の音を会場に響かせる浅鹿野棒踊り。生徒たちのまっすぐな瞳に心奪われた観客も多かった 8～12_ 前夜祭で大人に交じって披露した球磨神楽。神事が終わり、正座していた足を伸ばしていざ。緊張と闘いながら舞い切った

湯前中学校の2､3年生44人が11月15日に開かれた里宮神社の秋季例大祭で東方太鼓踊り、浅鹿野棒踊り、同月14日の前夜祭で球磨神楽を奉納しました。

伝統芸能の継承活動は、ふるさとへの愛着を深めてほしいと同校で続けられ、ことしで15年目。生徒たちは３班に分かれて、夏休みから本格的に練習を重ねてきました。

球磨神楽の奉納は同保存会とともに行われました。厳かな雰囲気に生徒は緊張していましたが、太鼓と笛の音色に合わせて、しっかりと自分の番を舞いました。

「さ～のさっ、さっ、えいえい」。棒踊りは掛け声に合わせて前後左右の仲間と動きをそろえ、棒の音を鳴らしました。太鼓踊りは「よ～おっ」と総大将の掛け声に合わせて太鼓を勢いよく響かせ、勇壮な舞いを披露しました。境内には多くの住民が駆け付け、見学した後には涙を流す人の姿も見られました。

Monthly Topics+

Pick up　山野草会

祭りの夜の「おごちそう」

料理愛好家でつくる「山野草会」の４人が11月７日に北御門浩さん宅で、かつて里宮神社の例大祭に合わせて家庭で作られていた料理を再現しました。献立は赤飯、うま煮、鶏の汁物、なます、鯛の煮つけ、甘酒など。祭り当日、神社周辺に人や出店があふれていたころ（会員によると昭和40年代ごろまで）、近くの家庭では、このような料理で町外からの客人をもてなしたそうです。

多分野の連携で、早めの支援を

湯前町PTA連絡協議会「家庭教育講演会」

本町PTA連絡協議会（有馬博士会長）の家庭教育講演会が11月12日に農村環境改善センターで開かれ、同会員や教育関係者、地域住民など100人が参加し、発達症※の「二次障がい」の支援について学びました。

講演会は、家庭における教育の向上を目的に毎年開催。今回は吉田病院（人吉市）の地域連携医長、興野康也さんが講師を務めました。興野さんは発達症の３種類を紹介しながら、症状や対策について参加者に説明。「周りの環境から影響を受け、発達症に別の発達症や精神疾患を併存することも多い。二次障がいを防ぐためにも、地域、医療、福祉のネットワークを築き、早めに支援することが大切」と訴えました。

↑発達症の特徴や早期支援の必要性を学ぶ参加者

※発達障がい＋知的障がいと同じ意味。精神科の最新の診断基準で「障がい」から「症」に変わった

↓湯前郵便局員と一緒に掲載を喜ぶ大野さん

ゆうちょカレンダーに町の文化財

おさる画伯のイラストが採用されました

（株）ゆうちょ銀行が発行する「ゆうちょマチオモイカレンダー2020」の11月のページに、おさる画伯として活動する、イラストレーターの大野慎也さん（40＝中里２）のイラストが熊本県代表として採用されました。

同銀行が５年前から取り組むもので、全国４ブロックに分けてデザイナーや写真家などが制作・撮影したふるさとの情景を掲載しています。大野さんは東方太鼓踊りや城泉寺など、本町の文化財をテーマに作品を制作。九州・四国版に掲載され、カレンダーは各郵便局などで無料配布されています。大野さんは「青年団や中学生が踊るなど、町への情熱を感じていた。多くの人に見てもらい、湯前のPRにつながれば」と話しました。

↑本町の文化財のPRに

↓早飲み競争で盛り上がる

過去最多、140台でにぎわう

第７回RVランド九州キャンプミーティング

「第７回RVランド九州・キャンプミーティング in 湯前」が10月26、27日にゆのまえグリーンパレス芝生広場一帯で開かれ、県内外からキャンピングカー140台、362人が工作体験や各種イベントを楽しみました。

キャンピングカーショップ経営などを手がける㈱RVランド九州が主催。交流人口を増やし、各地へ情報を発信しようと本町もイベントに協力しています。

芝生広場では、ほ乳びんを使った牛乳の早飲み「おっぱい早飲み競争」や「くるくる巻きパン作り」「バルーンアート」「墨作り」、蓑谷ため池ではカヌー・SUPを体験。観光物産協会による特産品の販売や抽選大会などもあり、参加者は笑顔で楽しんでいました。

↑過去最多の140台が集まった芝生広場

↓練習の成果を笑顔で発表する会員

舞台や展示、見ごたえばつぐん

第35回湯前町文化祭で町民が成果を披露

第35回湯前町文化祭が11月２、３日に農村環境改善センターで開かれ、見ごたえのある舞台発表や力作ぞろいの作品展示でにぎわいました。

文化祭は湯前町文化協会（柿川キヨ子会長）が主催し、作品展は同２、３日の二日間、舞台発表は３日に行われました。舞台は慈光こども園の合奏で幕を開け、湯前小学校４年生がよさこいソーラン、馬場区民有志と青年団が東方太鼓踊りを披露。会員は日舞や３Ｂ体操、フラダンス、社交ダンス、太極拳、民謡、カラオケなど、日ごろの練習の成果を発揮していました。

会場内には写真や絵画、書道、工芸品、フラワーアレンジメントなどの力作がずらりと並んでいました。

↑力作ぞろいの展示

↓笑顔で脱穀を体験する児童たち

昔ながらの機械で脱穀を

稲刈りを終えた湯前小5年生が脱穀を体験

湯前小学校5年生の脱穀体験が11月6日に、同校グラウンド近くの田んぼで行われ、児童27人が脱穀機械を使って、稲から米粒の入っている「もみ」をはがしました。JA青壮年部湯前支部（那須孝臣支部長）が協力。児童は6月に田植え、10月に稲刈りを終えました。「足踏み脱穀機」を使った昔ながらの脱穀と、現代の機械での脱穀の違いを2班に分かれて体験しました。

↓中村教育長から委嘱状を受け取る児童

ふるさとの良さ、伝えたい

湯前小6年生が湯前町PR大使として活動

湯前小学校の6年生36人が11月2日に教育委員会から「湯前町PR大使」として委嘱され、ふるさとをPRするパンフレット作りなどに励んでいます。吉田隆晟（りゅうせい）さん（同校6年＝浅鹿野）と太田寛太郎さん（同＝古城）が代表して中村富人教育長から委嘱状を受け取り、全員で「ふるさとの良さや地域の思いをPRできるよう協力して頑張ります」と口をそろえて決意を語りました。

↓相良三十三観音について学ぶ6年生

地域の文化財を発信できるように

ふるさと学習で住民から町の文化財を学ぶ

10月10日、湯前小学校でふるさと学習が行われ、全校児童192人が住民から地域の文化財について学びました。ふるさとの良さを知り、学んだことを地域に発信できるようにと文化の日にちなんで行われたもの。神社の宮司やお寺の管理人、文化財保護委員ら6人が各学年に分かれて、里宮神社、城泉寺、相良三十三観音などについて約15分間児童に説明しました。

↑より効果的な体操のコツを習いつつ、笑顔も絶えない参加者

体操や情報交換で交流深める

いきいきクラブ24カ所の大交流会

介護予防のために各地区などで行われている「いきいきクラブ」の大交流会が、11月19日に農村環境改善センターで開かれ、24カ所から約200人が参加。体操や情報交換などをして交流を深めました。

各クラブが交流することで介護予防に対する地域の意欲を高めようと町が主催し、開催は3回目。「うさぎとかめ」の童謡に合わせたレクリエーションで体と心をほぐしたあと、各クラブの代表者が活動内容を1分間で紹介。最高齢参加者や最多参加者など各クラブから推薦された人に、町から表彰状を贈りました。

その後、参加者は公立多良木病院の理学療法士からアドバイスを受けながら「いきいき百歳体操～くまもと県バージョン～」を行い、気持ちの良い汗を流しました。終了後にはぜんざいも振る舞われました。

↑かわいい我が子と一緒に祝い金を受け取った家族

6人の赤ちゃん、すこやかに

8～10月生まれ、子育て世帯に出生祝い金

このほど、出生祝い金の贈呈式を湯前町役場で2回開き、8月から10月生まれの赤ちゃんを育てる6組の家族に、祝い金を贈呈しました。

子育て家庭の生活の安定や人口減少対策として6月から取り組み、ことし4月2日以降に生まれた子、一人につき15万円を支給します。11月12日に開かれた贈呈式で、本年度8組目となりました。

祝い金を受け取った家族は「兄弟と仲良く、元気に育ってほしい」「町に貢献できるよう頑張りたい」などとそれぞれ抱負を述べました。

■出生祝金交付者（子ども名、親名）※敬称略

○高木 椛波（もな）　凌（上村）
○尾方 來弥（らいや）　暁哉（野中田3）
○工藤 明翔（あきと）　正明（馬場）
○吉村 和加菜（わかな） 嘉夫（中里2）
○樋口 礼人（あやと）　孝二（古城）
○那須 煌羽（こうは）　透（上里3）

戸籍の窓

ご結婚おめでとう

中渡 佳佑（中里２）
池田 彩乃（福岡県）

柳瀬 利己（瀬戸口）
藤﨑 美奈（錦町）

中野 超人（福岡県）
中西 舞（下村）

お誕生おめでとう

工藤 明翔（あきと） 正明（馬場）
那須 煌羽（こうは） 透（上里３）

ご冥福をお祈りします

桜木 直人（古城）
松下 キクヨ（上染田）
小松 誠（野中田３）
皆越 勝助（下城）
椎葉 利次（野中田３）
大平 サヨ子（浅鹿野）
吉村 一喜（浅鹿野）
椎葉 キミ子（植木）

香典返し

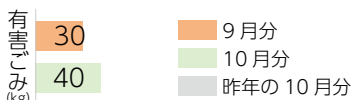
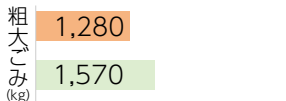
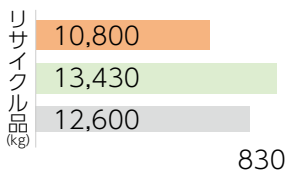
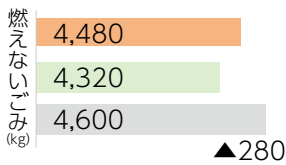
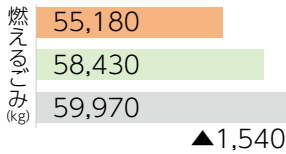
池崎 かほる（野中田１）
桜木 スエ（古城）
松下 幸明（上染田）
皆越 ツルエ（下城）
小松 植（野中田３）
大平 睦（浅鹿野）
椎葉 咲子（野中田３）
吉村 トモエ（浅鹿野）

令和元年 10 月 1 日～ 31 日

10月の一人当たりのごみの量

16.85kg（先月から0.91kg増）

※リサイクル品を除く

	9月分	10月分	昨年の10月分	
燃えるごみ(kg)	55,180	58,430	59,970	▲1,540
燃えないごみ(kg)	4,480	4,320	4,600	▲280
リサイクル品(kg)	10,800	13,430	12,600	830
粗大ごみ(kg)	1,280	1,570		
有害ごみ(kg)	30	40		

Dietary habits

管理栄養士だより

年末はホットプレート

クリスマスや忘年会、お正月など、大勢で食事をする機会が増える季節。収納しっぱなしの「ホットプレート」で調理してみませんか？

【湯葉】

①ホットプレートに豆乳１㍑を入れる

②140度に加熱し、湯葉ができたらすくって好みの調味料でいただく

【材料】

無調整豆乳…１㍑、ポン酢、小ねぎ、ゆず胡椒

【シュウマイ】

①タマネギをみじん切りし片栗粉をまぶす

②ボウルにおろし生姜、調味料、①を加えてこねる

③シュウマイの皮で②を包む

④ホットプレートにシュウマイを並べ、分量の水を回し入れ、ふたをして250度で加熱

⑤ジュージュー音がしてから10分間蒸す

※途中で水分がなく、焦げそうになったら、湯を足す

【材料】

シュウマイ皮…30枚、豚ミンチ…300㌘、タマネギ…１個、片栗粉…大さじ１、おろし生姜…大さじ１、濃口しょうゆ…大さじ１、みりん…大さじ１、塩…小さじ１、酒…大さじ２、ごま油…大さじ２、水…１カップ、ポン酢…適量、からし…適量

管理栄養士　田中 朋子

学ぼう、分別のコツ

年末の大掃除をスムーズに

Ecolog

ごみ情報

1．ごみを捨てる段階で分別すると、後の作業が楽に

2．「可燃」「不燃」など区分ごとにごみ箱（できればフタ付き）を用意

3．ごみの分別表をごみ箱付近に貼って、出し間違いを防止

4．捨てる前に洗えるものはしっかり洗って、嫌な臭いを防ぐ

5．潰して折りたたみ、ごみを小さくしておく

※ペットボトルとスチール・アルミ缶は、クリーンプラザでの処理上潰さずに出してください

12月の不燃物収集	4日、18日（第１、第３水曜）
ことし最後の可燃物収集	月・木曜…30日 火・金曜…27日

指定ごみ袋に大きく名前を書く

※ごみを出すときは、指定ごみ袋を使う

※ごみ袋には大きくフルネームを書く（字が小さかったり、欄外に書かれていると収集されないこともあります）

※ごみ出しは指定の日、指定の場所へ（通勤途中など、指定の場所以外にごみを出すと、管理している地域の人の迷惑です）

名前が書かれず、地域の人以外が出したと思われるごみ。中には燃えないごみも

Health

保健師だより

それぞれの自殺対策

湯前町自殺対策推進計画の取り組み

心の不調や自殺はいくつもの問題が重なった結果として起こるもので、決して人ごとではありません。悩みに気づいたら、傾聴し、専門家へつなぎましょう。家族のつらい気持ちに寄り添うことも大切です。命を支える自殺対策が進む地域を目指し、自分に何ができるか考えてみませんか？

■内容

①傾聴し、専門家へつなぐ
　ゲートキーパー養成講座を住民、関連職員へ開催

②生きがい、仲間づくりの「生涯学習教室」

③農地の相談、機械の購入補助で不安や負担減

④研修や人材育成で就労、創業を支援

⑤生活困窮の相談を受け、支援窓口を紹介
　上下水道の徴収時などにも

⑥警察官による巡回連絡

⑦心配ごと相談、ケアマネジャーの訪問

⑧高齢者の総合相談支援

保健師　野々原 亜紀

Books

読書のススメ

中央公民館図書室 ※貸出期間２週間／一人５冊まで
〇平日 午前８時30分～午後５時　〇土日・祭日 午前９時30分～午後５時
問 教育委員会 ☎0966（43）2050

戦中戦後の日本が浮かびあがる傑作長篇
エリザベスの友達
村田 喜代子（著）　新潮社

認知症の母の目に映るのは、かつて彼女がいちばん輝いていた時代。介護ホームに暮らす97歳の母・初音は結婚後、天津租界で過ごした若かりし日の記憶、幼い娘を連れた引き揚げ船の光景に生きていた。

もう二度と、私の前から消えないで
黄泉がえり again
梶尾 真治（著）　新潮文庫

あの大地震から２年。熊本で、死者が次々生き返る“黄泉がえり"現象が再び発生した。元・記者の川田平太は、前回黄泉がえった男とその妻の間に生まれた、女子高生のいずみがその鍵を握ると知るのだが…

世界中で190年も語り継がれる“あの詩”
聖ニコラスがやってくる！
クレメント・C・ムーア（著）　西村書店

1822年のクリスマス・イブ、子どもたちの前で一篇の詩が読まれた。それは翌年12月に、作者名のないまま新聞に載り、やがて世界中に広まった。そしてこの詩から、今のサンタクロースの姿になった。

サンタさんにとっても、特別な日
100にんのサンタクロース
谷口 智則（著）　文溪堂

あるところに100人のサンタクロースが住むまちがありました。サンタさんは100人みんなで協力してクリスマスの準備をします。みんなにプレゼントを配り終わった後、秘密の楽しみがありました。

婦人会だより

令和元年　No. 4

朝夕ようやく冷え込むようになりました。葉っぱが落ちて、まるでブドウの房のように鈴なりだった柿の実も、つるし柿になってあちこちの軒先で見られます。季節の移り変わりを感じるこの頃です。そろそろインフルエンザもやってくるかも…

これまで

10月10日(木)　交通安全母の会 **ビーチボールバレー大会**　海洋センター
7地区15チーム　本町から2チーム出場

26日(土)　**県婦連ミニバレーボール大会**　宇土市不知火体育館

11月3日(日)　**湯前町文化祭協力**　農村環境改善センター
イスに座ったままでできるストレッチ体操を会場のみんなと一緒に

7日(木)、8日(金)　**九州地区婦人会大会**　福岡市

11月14日(木)　**農芸学院運動会**

これから

12月11日(水)　**支部長研修**
オリジナルのハーバリウムを作ります

翌年1月4日(土)　**成人式協力**
湯楽里入浴券を進呈

地域婦人会長
橋田 實子

↓ビーチボールバレー大会でのあいさつ

↓文化祭でのストレッチ体操

ご対応ありがとうございました
10月～11月　高齢者世帯訪問

県の事業、交通安全母の会として100戸。高齢者の皆さん快く対応していただきありがとうございました。交通事故、詐欺被害に気をつけてくださいね。

林委員に県功労者表彰

第58回熊本県スポーツ推進委員研修会

第58回熊本県スポーツ推進委員研修会が11月16日、17日に水俣市で開催され、本町スポーツ推進委員の林泰広(やすひろ)さん（49＝下城）が熊本県スポーツ推進委員功労者表彰を受けました。

研修会は、スポーツ推進委員が資質の向上を図り、生涯スポーツを振興することで、地域の皆さんが健康で心豊かな、生きがいのある生活を送っていけるようにと毎年開催されています。功労者表彰はスポーツ推進委員として8年以上活躍し、地域スポーツの振興に顕著な功績をあげた人に贈られます。

↑笑顔で表彰を受ける林さん

↑研修会に出席した委員ら

素敵な竹灯ろう

11月8日から14日にかけて開催した里宮神社の紅葉ライトアップ。里宮神社と下城地区の子ども会の協力で開催したこのイベント。最終日は里宮神社の秋季例大祭の前夜に合わせて竹灯ろうを並べました。穴を開ける作業はなかなか難しく、大人でも大変な作業でしたが、子どもたちが最後まで頑張ってくれて、素敵な竹灯ろうが完成しました。

↓子どもたちも頑張って作ってくれた竹灯ろう

↓優しさは、きっと伝わるはず

思いやり＝未来

数カ月前から、町を盛り上げるためのプロジェクト会議に参加しています。20年後、町が存在しているかどうか怪しい現状が迫っていると言われています。行政が、事業者が、町民が、と昔からいろんなしがらみもあるかもしれませんが、自分の利益や立場を優先してばかりではなく、少しずつ他人への優しさが広がっていけば、良い流れに乗ると思うこの頃です。

地域おこし協力隊's Diary
隊員「目線」でリポート

リポーター
椎葉 賢也(けんや)

広がってほしいボランティアの心　ゆるっと近況報告

町内を協力隊の車で走っていると、道端や公園で落ち葉拾いやごみ拾いをしている人をたまに見かけます。仕事ではなさそうな雰囲気だったので話を聞いてみると、ボランティアでされているとのこと。町の、人の、自分のためと理由はさまざまでしたが、その行動が良い方向へ流れていくよう、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと勝手に思う椎葉でした。

編集後記

▼里宮神社の紅葉を撮るのは、初めてでした。日の暮れる前の、夕日に照らされた紅葉も圧巻。「だれかに見せたい景色」とはまさにこれ。ライトアップを見に来た人はみんな口をそろえて「こんな素敵な風景があったなんて」と驚いていました。住民が町の魅力に気づくきっかけをつくってくれた関係者に感謝。私もたくさんのきっかけをつくれるような紙面を目指します。▼ライトアップの後には本殿で球磨神楽が奉納されました。例大祭前日の様子を見たのも初めて（恥ずかしながら）。本殿で獅子舞が舞うことも知りませんでした。広報湯前は462号発行していますが、町内にはまだまだ取り上げるべきネタがたくさん潜んでいそうです。▼編集後記を見た人に「家族への愛が伝わる」と言っていただきました。新連載「新米パパのイ(文)クメン日記」。そんな企画もいいかもしれませんね…。そのためには、もう少し育児にかかわらねばなりません。（広）

まちを、人を想いたくなる情報誌
広報湯前
Public Relations Since1962.
12 Dec 2019
Vol.462
令和元年11月29日発行第462号
発行／湯前町役場総務課 https://www.town.yunomae.lg.jp/ 〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1 TEL0966-43-4111 印刷／㈱CAP

自信を持った。楽しめた。一番の発表ができた——

Hattori Mirai

Iwano Nene

VOL.22 フォーカス Focus Focus on hot human.

人吉球磨英語暗唱大会２年生の部で優勝した

岩野寧々さん※左 服部美来さん

第47回人吉球磨中学校英語暗唱大会が９月19日にあさぎり町の「ポッポー館」で開かれ、２年生の部に湯前中学校の岩野寧々さん（瀬戸口）と服部美来さん（野中田３）が出場。第１位に輝き、11月12日に熊本市で開かれた県大会に郡市代表として出場した。

大会は英語の表現力を伸ばすことを目的に開催され、各学校の学年代表一組ずつが出場。教科書の単元から一つを選び、２年生は３分以内で発表する。

岩野さんと服部さんは自ら手を上げ、夏休みに入る７月から練習を始めた。「自然で、滑らかな発音が難しかった」と岩野さん。二人は自宅でＣＤを聞いて発音やイントネーションを確認し、２学期からは昼休みの時間を使って、ＡＬＴのアドバイスを受けながら練習を重ねた。ジェスチャーや役割分担などは自分たちで工夫し、より伝わるような表現に磨きをかけた。

郡市大会での発表順は最後。「マイクがないから通る声で」などと他の生徒の様子を見て、自分たちの発表につなげた。「緊張したが、今までで一番よくできた発表だった」と服部さん。練習から堂々と、失敗を恐れずに挑戦し続けたからこそ、自信を持てた。二人は本番も楽しんで発表することができた。

県大会では惜しくも入賞はならなかったが、岩野さんは「大きな舞台で発表したことで、校内での発表が苦にならなくなった。もっといろんなことに挑戦してみたい」、服部さんは「英語の定期テストの成績がよくなった。県大会は１００パーセント悔しい気持ちしかない。来年は出場できない分※、校内文化祭での発表に気持ちをぶつけたい」と経験を意欲に変え、動こうとしている。

1＿初めは苦手に感じていた発音も、今ではとても滑らかに。ジェスチャーだってお手の物 2＿二人の名前が刻まれた栄冠のトロフィー

※大会の規定により、県大会に出場したグループは次年度大会に出場できないが、同大会の司会を務める予定となっている